

非結核性抗酸菌症

非結核性抗酸菌症とは？

一度染色されると酸で脱色されにくい菌は抗酸菌と呼ばれ、最も有名な菌に結核菌があります。抗酸菌の中で結核菌群以外の培養可能な抗酸菌を一括して非結核性抗酸菌 (nontuberculous mycobacterium, NTM) と呼び、その感染症が非結核性抗酸菌症です。従来は定型の結核に対し非定型抗酸菌症と呼ばれていました。

NTM 症は結核の影に隠れがちですが、1994 年の年間発生率は人口 10 万に対して 4.06 と 30 年間に約 4 倍の増加が見られ、肺抗酸菌症の中で NTM 症の占める割合も約 14% と上昇しています。

どこにいるの？

NTM は塵埃、土壌、水など広く自然界に生存しています。また、飲料用水をはじめとして池、噴水、温泉水、公衆浴場水、一般家庭浴水及び循環風呂浴水など身近な生活水からも検出されています。

なぜ病気になるの？

NTM は、結核菌群と異なり病原性が弱く、体の抵抗力の弱い人だけが感染する日和見感染と考えられていました。しかし、最近、原因は不明ですが、健康な中高年、特に女性に感染者が増えています。

どのように感染するの？

環境中の粉塵や水しぶきなどと一緒に菌を吸引するか皮膚に付着して感染が起こると考えられています。人から人への感染は起こりにくいと考えられていますので、感染者が排菌していても周りの人に感染することはない、結核のように隔離入院をすることもありません。

どのような症状なの？

最初は自覚症状のないことが多いのですが、進行すると咳、血痰、微熱等が主症状となります。他に体重減少、倦怠感、寝汗、息切れ、胸痛などが見られません。

どのように調べるの？

レントゲンや CT などの画像的所見および細菌学的

所見による診断基準が 1980 年に国立療養所非定型抗酸菌症共同研究班から出されています。診断基準の中で NTM の検出が複数回求められているのは、NTM が自然界に広く存在する菌であるため、偶然、検体の中に混入した菌が検出され、陽性と診断されるのをさけるのが目的です。

治りやすいの？

NTM の種類により治癒しやすいものと、治癒しにくいものがあります。現在、NTM は約 100 種類が確認され、その中の 15 種による感染症が我が国で報告されていますが、*M. avium* complex (MAC) と *M. kansasii* の 2 種類の菌による感染症が NTM 症全体の 90% 以上を占めますので、この 2 種類について紹介します。

MAC による NTM 症は生化学的性状で区別できなかった *M. avium* と *M. intracellulare* を一括した名称ですが、近年、核酸増幅法により分類が可能となりました。我が国における分布調査で *M. avium* は東日本に多く、*M. intracellulare* は西日本に多いことが報告されています。

感染者は中高年 (平均年齢 68 歳) の男子に多く、肺結核、胸膜炎、肺気腫、気管支拡張症などに続発することが多いのですが、基礎疾患のない人に起こることもあります。

MAC はほとんどの抗結核薬に感受性がなく、難治性の感染症と考えられています。

M. kansasii による NTM 症は MAC 症に比べ若年者 (平均年齢 53 歳) の男性に多いのが特徴の一つです。基礎疾患なしに感染することが多いのですが、多くの薬剤に感受性を示し、抗結核剤を使用した治療などが行われ良好な結果が報告されています。

NTM の病原性が弱いため、NTM 症はあまり注目されて来なかった感染症ですが、難治性の感染症があり、かつ増加傾向にもあります。また、新たにエイズの合併症としても問題にされるなど、注視していかなければいけない感染症の一つと考えられます。

【微生物担当】